



麗人哀歌

野村愛浩(畫)

(78)

危難(1)
蓬萊山もよそならず……
震ひきたいくら美しい聲で
の稽古をなしてゐる。そこへ表戸から
がりと開けて、生首の七が入つて來て
「阿母ア、ゐるかい?」
と聲をかけた。
「おら、いらしゃい。いよいよ、
お留守ですわ。千駄ヶ谷のむ屋敷
（お出掛けになりまつたの）
（もうかい、早くからかい?）
（ね、今朝から）
「そいぢやアもう歸つて来るだり
（お出掛けになつたの）
（もう一杯注いでくんない。なんだ
母アのやうな梅干漬ア達はア）
さいつてくさ飲乾して、暫く
お鈴の様子を見つめたが
（お出掛けになつたの）
（もう一杯注いでくんない。なんだ
お鈴が前この頃になつてめ
つきり綴りようなげたぜ、見達
へるやうになつた!）

てお會ひになられるのですつて、
それでよせう」
お嬢さまといふのは、云ふまで
もなくむほのとである。牛首の
七、うつかりて、直さんお鈴を注視
した。眞實の伯爵の令嬢はおひき
だな。巧くやつたなあ……」
お鈴は首を振つた。しかもその
聲のどこかには微かな悲しみが含
まつてあつた。

「いいね」
お鈴は首を振つた。しかもその
聲のどこかには微かな悲しみが含
まつてあつた。

日本船員の腕

解體用ボロ船で六十五日航海
見事太平洋を乗り切る

日本船員の腕

去る七月五日早朝朝靄を破つて二
千四五百トンもあらうが國船が大
阪港外に赤錆だらけの姿を現し
船首にかすかに讀む英字は「
MIRA」この船の到着とともに日本
本船員の腕を讃へる朗説が港の人
の口から口へ傳へられた
わが國鐵帆船の多數のボロ
船が運々世界艦船の本場大阪
自力で大阪港に迫り立った船の
内でもこのニジア號は古物船の最
も悪く運び込まれて來るが、しかも
陸上ハイキングの速さ、しかも
途中ボンバルに寄港大阪者が七
月五日、晦夜五ノットといふ船
はうちこちに働き廻つて廿八年船
は煤瓦の粉を塗つたよ、人
間で、いば八十歳の婆さんの姿
だ、アラスカ・ステイムシップ
会社の所有で長くシナトル港
に係るし輝くものだ

十六名の日本船員、俺らの胸で見
事太平洋五千キロの荒浪を乗り切
つて百人まで尻込みするところを男
船員が引受け、五月一日シナトル
港まで五日間、暴風雨に遭つて船
を一昼夜にしまゝ逆巻く怒濤を
壯暮に眼の碧いマドロス達を憚か
し木下船長らの名は長く航海史
に燐るし輝くものだ

その後も搖れに搖れて炊事が出来
ないため一度に澤山の飯を炊い
て船出、その後同月五日から九
月まで五日間、暴風雨に遭つて船
を一昼夜にしまゝ逆巻く怒濤を
壯暮に眼の碧いマドロス達を憚か
し木下船長らの名は長く航海史
に燐るし輝くものだ

日本船員の腕

外に老の姿、浮べてゐたのを

大坂港區南端川の木本第二氏が

二萬ドルで買ひ受け、

それを取取りに出かけたのが老船

長木下謙市兵以下八名、下級船員

が運んで來る北米シナトル一大

阪港を六十五日かゝつたといふ

から驚くべき超高速ボロ船解説

途中ボンバルに寄港大阪者が七

月五日、晦夜五ノットといふ船

はうちこちに働き廻つて廿八年船

は煤瓦の粉を塗つたよ、人

間で、いば八十歳の婆さんの姿

だ、アラスカ・ステイムシップ

会社の所有で長くシナトル港

に係るし輝くものだ

日本船員の腕

十六名の日本船員、俺らの胸で見

事太平洋五千キロの荒浪を乗り切

つて百人まで尻込みするところを男

船員が引受け、五月一日シナトル

港まで五日間、暴風雨に遭つて船

を一昼夜にしまゝ逆巻く怒濤を

壯暮に眼の碧いマドロス達を憚か

し木下船長らの名は長く航海史

に燐るし輝くものだ

日本船員の腕

外に老の姿、浮べてゐたのを

大坂港區南端川の木本第二氏が

二萬ドルで買ひ受け、

それを取取りに出かけたのが老船

長木下謙市兵以下八名、下級船員

が運んで來る北米シナトル一大

阪港を六十五日かゝつたといふ

から驚くべき超高速ボロ船解説

途中ボンバルに寄港大阪者が七

月五日、晦夜五ノットといふ船

はうちこちに働き廻つて廿八年船

は煤瓦の粉を塗つたよ、人

間で、いば八十歳の婆さんの姿

だ、アラスカ・ステイムシップ

会社の所有で長くシナトル港

に係るし輝くものだ

日本船員の腕

外に老の姿、浮べてゐたのを

大坂港區南端川の木本第二氏が

二萬ドルで買ひ受け、

それを取取りに出かけたのが老船

長木下謙市兵以下八名、下級船員

が運んで來る北米シナトル一大

阪港を六十五日かゝつたといふ

から驚くべき超高速ボロ船解説

途中ボンバルに寄港大阪者が七

月五日、晦夜五ノットといふ船

はうちこちに働き廻つて廿八年船

は煤瓦の粉を塗つたよ、人

間で、いば八十歳の婆さんの姿

だ、アラスカ・ステイムシップ

会社の所有で長くシナトル港

に係るし輝くものだ

日本船員の腕

外に老の姿、浮べてゐたのを

大坂港區南端川の木本第二氏が

二萬ドルで買ひ受け、

それを取取りに出かけたのが老船

長木下謙市兵以下八名、下級船員

が運んで來る北米シナトル一大

阪港を六十五日かゝつたといふ

から驚くべき超高速ボロ船解説

途中ボンバルに寄港大阪者が七

月五日、晦夜五ノットといふ船

はうちこちに働き廻つて廿八年船

は煤瓦の粉を塗つたよ、人

間で、いば八十歳の婆さんの姿

だ、アラスカ・ステイムシップ

会社の所有で長くシナトル港

に係るし輝くものだ

日本船員の腕

外に老の姿、浮べてゐたのを

大坂港區南端川の木本第二氏が

二萬ドルで買ひ受け、

それを取取りに出かけたのが老船

長木下謙市兵以下八名、下級船員

が運んで來る北米シナトル一大

阪港を六十五日かゝつたといふ

から驚くべき超高速ボロ船解説

途中ボンバルに寄港大阪者が七

月五日、晦夜五ノットといふ船

はうちこちに働き廻つて廿八年船

は煤瓦の粉を塗つたよ、人

間で、いば八十歳の婆さんの姿

だ、アラスカ・ステイムシップ

会社の所有で長くシナトル港

に係るし輝くものだ

日本船員の腕

外に老の姿、浮べてゐたのを

大坂港區南端川の木本第二氏が

二萬ドルで買ひ受け、

それを取取りに出かけたのが老船

長木下謙市兵以下八名、下級船員

が運んで來る北米シナトル一大

阪港を六十五日かゝつたといふ

から驚くべき超高速ボロ船解説

途中ボンバルに寄港大阪者が七

月五日、晦夜五ノットといふ船

はうちこちに働き廻つて廿八年船

は煤瓦の粉を塗つたよ、人

間で、いば八十歳の婆さんの姿

だ、アラスカ・ステイムシップ

会社の所有で長くシナトル港

に係るし輝くものだ

日本船員の腕

外に老の姿、浮べてゐたのを

大坂港區南端川の木本第二氏が

二萬ドルで買ひ受け、

それを取取りに出かけたのが老船

長木下謙市兵以下八名、下級船員

が運んで來る北米シナトル一大

阪港を六十五日かゝつたといふ

から驚くべき超高速ボロ船解説

途中ボンバルに寄港大阪者が七

月五日、晦夜五ノットといふ船

はうちこちに働き廻つて廿八年船

は煤瓦の粉を塗つたよ、人

間で、いば八十歳の婆さんの姿

だ、アラスカ・ステイムシップ

会社の所有で長くシナトル港

に係るし輝くものだ

日本船員の腕

外に老の姿、浮べてゐたのを

大坂港區南端川の木本第二氏